和泉・商スト決議

愛知外相訪ジャカルタに抗議して

『アメリカ帝国主義のカンボジア侵攻阻止』『五・一五愛知外相訪ジャカルタ阻止』などを叫ぶ和泉・商学部自治会（井花清委員長）は十四日、午後二時三〇分から和泉・第二校舎一番教室にて、商学部臨時学生大会を開き、五・一五商学部スト権確立に向けての討議を行なった。その結果、四時過ぎに行なわれた投票で、出席代議員四二名（委任状を含むのべ五二名）の三分の二以上の賛成票を得て「スト」賛成が過半数に達した。その、五月一五日の和泉地区商学部二日ストライキ実施が確定した。

予定より三〇分ほど遅れて始まったこの商学部臨時学生大会には昨年六月十七日以来の久々の学生大会とあって、各クラスからの代議員を含め約三〇〇名程の学生が会場につめかけた。

大会は、まず議長に岡本君（商二）を選出し、全学連中央書記局（中核派）の松倉書記次長が挨拶に立ち、「日米帝国主義の打倒に向けて、今こそ決起を」と訴えた。その中で松倉氏は、「――委員長不在の学生大会は無効――と日共＝民青がわれわれの『カンボジア侵攻阻止』行動に対して敵対を図っている」と述べ日共を非難した。続いて、昨年の一〇・二一以来現在なおも東京拘置所に拘置され続けている、五月祭二商学部自治会委員長の獄中からの「メッセージ」が紹介された。

この後、井花委員長代行が「米帝のカンボジア侵略を糾弾する、日帝を突破口とする愛知外相訪ジャカルタ阻止」として五・一五商学部スト」を提起し、会場に討論に入った。

討論では、二年十組をはじめとする約一〇クラスの代議員が、クラス決議をもとに決意表明を行なった後、四時過ぎ議場を閉鎖し『スト権確立』に関する投票が行なわれた。委任状を含めた出席代議員四二名のうち、「スト賛成」が過半数の二十一票を上回ったため、スト権が確立し、翌十五日に商学部ストライキが決行されることになった。

大会はこの後、インターを斉唱し、四時半頃終了し、二〇名ほどが中庭をデモ行進した。

翌十五日には、午前十時ごろ和泉校舎正門前に約五〇人が結集し中庭で行なわれていた明大経済学会集会に合流した。

また、午後一時すぎ、商学部自治会系の約五〇人は和泉校舎周辺をデモ行進した。正門付近には五〇名を越える機動隊が配置されていた。商学部ストライキに対する一般学生の関心は薄く、授業妨害もあったが、さしたる混乱も生じなかった。

このストライキに対し、当局は十八日学長、商学部長名で次のような掲示を出した。

商学部学生諸君へ

去る十五日、前日の商学部学生大会において「スト権が確立された」と称して一部の者が大学側の制止にも拘らず大学の器物を持ち出しまた、授業妨害の行為に出たことは極めて遺憾である。

学生本員の退出も学部全クラスについてはまだ終っていない状況で聞かれ、また学部学生会規約に限しても不備な点のあるこの学生大会が果して正当性をもつかについては大きな疑義が持たれることであり、もともと大学はこのような大会決定には拘束されるべきものでもないので、平常通り授業を行なう方針で臨んだが、

しかるに前記のような行動が強行され、他学部の授業にまで迷惑を及ぼしたことは、許しがたい行為であり、このような行動に出た人たちの責任は重大である。諸君を促したい。

また他の多くの学生諸君には、このような不祥事が今後くりかえされることのないよう、それぞれ冷静に慎重を期されることを切に要望する。

五月十八日

学長
商学部長

スト権確立へ向けての投票風景　和泉・第二校舎1番教室にて